

eラーニングをうまく活用できる企業とは？ 効果的な運用方法を解説

※ 無断引用や転載、第三者への送信禁止。



目次

Index

1. 企業や教育の現場担当者が抱えている悩みとは？
2. eラーニングの利点と落とし穴の原因を知る
3. 原因を解消し、うまく活用する為の対策
4. おわりに

1. 企業や教育の現場担当者が抱えている悩みとは？

まずは、導入後に効果を感じられない点について、現場担当者の抱える悩みを見ていきましょう。

- 大半の受講者がログインすらせず、ほとんど利用してもらえない
- 思ったより受講が進んでいないのだが、その原因がわからない
- 受講はしてくれたけど学んだことを業務において活用できていないのではないか

以上のように、受講者の状況を追えていないということがわかります。

そこで自問自答してほしいのが、以下になります。

- ✓ 導入する目的は明確にしましたか？
- ✓ 導入したことで満足していませんか？
- ✓ 導入したことを受講者に認知されていますか？学習を受講者任せにしていませんか
- ✓ 受講後のフォローができていますか？
- ✓ 受講後に実践できる環境は用意されていますか？

「たくさんのコンテンツを含めたeラーニングシステムを導入したのだから、自ら学びたいものは必ずあるだろう」という受講者任せの期待をしているのではないのでしょうか。

これでは、活用できるものもできていない状況といえます。



2. eラーニングの利点と落とし穴の原因を知る

eラーニングとは、インターネットを利用した学習方法であり、以下のような特徴とメリットがあります。

- 時間や場所を問わず自由に学習ができるため、多くの関係者に提供できる
- 時間や場所及び人件費等にかかるコストが抑えられる
- 同じ講師から学べるので一定の質が保たれ、受講者の理解度がばらつくのを防ぐ
- 幅広いテーマを一斉に提供できるため、受講者の興味関心に沿った学びを提供できる

早速ここで落とし穴となるのが「**時間と場所を問わず**」の部分です。

これは逆に言えば、受講するもしないも、受講者の意思に委ねられるということです。

「いつでも受講できる」という利点が優先し、学習の優先度を下げてしまうのです。

その為、なかなか受講が進まず、最終的には期限までに教材を視聴することが目的となり、本来の目的と逸脱してしまうというケースがあります。



3. 原因を解消し、うまく活用する為の対策

これらの原因を解消する為には、目的を明確化し、それに合ったeラーニングシステムの導入をすること。

そして導入をして終わりではなく、しっかりとシステムを運用し、インプットする受講を終えたあとも、アウトプットするための環境を用意することが重要です。

これらについての具体的な対策を、段階ごとに詳しくお伝えします。

- ① 導入前に心得や注意点を知っておくと共に、導入目的を明確にする
- ② 受講者の意見に合わせ必要なコンテンツを準備し学習を始める
- ③ プロモーションを行う
- ④ 受講者のフォローを行う
- ⑤ 効果の分析と改善を行う



3. 原因を解消し、うまく活用する為の対策

①

導入前に心得や注意点を
知っておくと共に、
導入目的を明確にする

導入前は、利点を知っておくことと同様に、**目的を明確化させ、それに必要なプロセスを考えましょう。**

また、以下のような心得や注意すべき点を知っておくと、運用がスムーズにいくでしょう。

- ✓ eラーニングは万能ではないことを理解しておく
- ✓ eラーニングは手軽に導入ができるが、管理、運用は決して簡単ではない
- ✓ システムは導入して終わりではなく、正しく運用する必要がある
- ✓ 学習を受講者任せにはいけない
- ✓ 受講者の目的や受講する動機付けを徹底する

特に、**受講開始前にどれだけ学習の優先順位を上げられるかは大事な鍵となります。**

受講の必要性を感じていない場合には、「今のままではまずい」「こんなスキルが求められるのか」「しっかり学ばなければ」という気持ちを持たせることで、**学習の必要性に気付かせ、意欲を喚起させることができます。**

3. 原因を解消し、うまく活用する為の対策

②

受講者の意見に合わせて
必要なコンテンツを準備し
学習を始める

例えば、大学卒業したての新入社員にMBAレベルのコンテンツを受講させたり、レベルの高い社員に、基礎的なレベルのコンテンツを受講させても、時間と意欲の無駄になってしまいます。

どのように受講者を選定するかにもよりますが、もし一人ひとりしっかりフォローのできる体制であれば、**経歴やレベルに合わせる**ことはもちろん、**実用志向の受講者には業務の具体的な場面を示しながら役立つコースを提示**したり、**自尊思考の受講者には他の受講者の受講状況を提示**したりして、目的やタイプ別にコンテンツを選定するのが良いでしょう。

そして、**コンテンツの内容も大事ですが、クオリティも重要です。**

個人でYoutubeやNetfilxをはじめとした、オンライン動画を見慣れている人たちに対して、素人がただ話をしているだけの動画や、聞き取りづらい声で、動かないパワーポイントの動画を見せたところで、学習効果どころかその時間は苦痛でしかなくなってしまい、この施策そのものに対して マイナスの感情を生んでしまいかねません。

3. 原因を解消し、うまく活用する為の対策

③ プロモーションを行う

せっかくここまで構築して準備をしても、**受講対象者に気付いてもらえてないとしたらそれだけ無駄なことはありません。**

そのためにはプロモーションをしっかりと行って周知させることが重要です。

社内受講だからと言って、**プロモーションをおろそかにすると、誰にも周知されていない、受講するモチベーションがわからない、といったスパイラルに陥ります。**

うまく活用している企業は、ある程度のコストをかけてメールマガジンを送ったり、社内にポスターを張るなど、社員に知ってもらい、モチベーション高く受講してもらうための工夫をしています。

3. 原因を解消し、うまく活用する為の対策

④ 受講者のフォローを行う

1日で終わる集合研修とは違い、eラーニングは数週間から数か月にわたり受講期間が設けられていることが多いです。

その為、目的を明確にしていたとしても、**コンスタントに受講を続けることは容易ではありません。**

受講者に任せっきり、投げっぱなし、放置のままでは、学習効果が下がる受講者が大半となり、最後まで受講しきれない方や、受講期間ぎりぎりに駆け込みで終わらせる方が増えてしまいます。

運営側からの具体的なフォローとしては、

- ✓ 受講状況の管理
- ✓ 受講者へのリマインドを行う
- ✓ チャット機能を利用し質問に対して迅速に答える
- ✓ スケジュールリングのサポート

などが挙げられます。

対象者の特性を踏まえながら定期的なコミュニケーションをとることで、受講者のモチベーション維持をサポートしましょう。

3. 原因を解消し、うまく活用する為の対策

⑤ 考課の分析と改善を行う

受講を終えた後は、受講したことでどのくらいの効果があったのか、改善点はないかを確認します。

学んだ内容はインプットするだけではなく、アウトプットしなければものにならない為、そのような機会を設けることはとても有効です。

例えば以下のような事例が挙げられます。


✓ テスト機能の活用

テストに合格した受講者から特定の業務にのぞめるようにする 業務と関連させる方法は実践的で、現場でも即戦力になる為、受講した意味を得られやすいです。もしテストに不合格だったとしても、実践することで自分の中の知識を整理する良い機会になります。

✓ 受講者同士で情報交換や、問題を解き合う機会を設ける

この方法も、考えが整理されるとともに新たな視点が得られます。ディスカッションやグループワークなどは良い例です。アウトプットの質が高まり、成果を得られる可能性も高まります。このように、効果の分析と改善を繰り返すことが、受講者目線の効果的な活用法につながるのです。

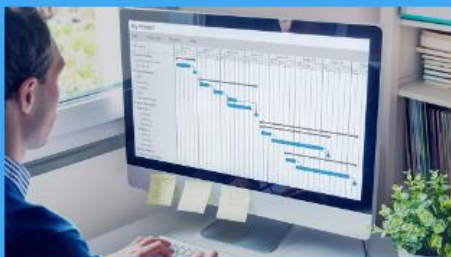
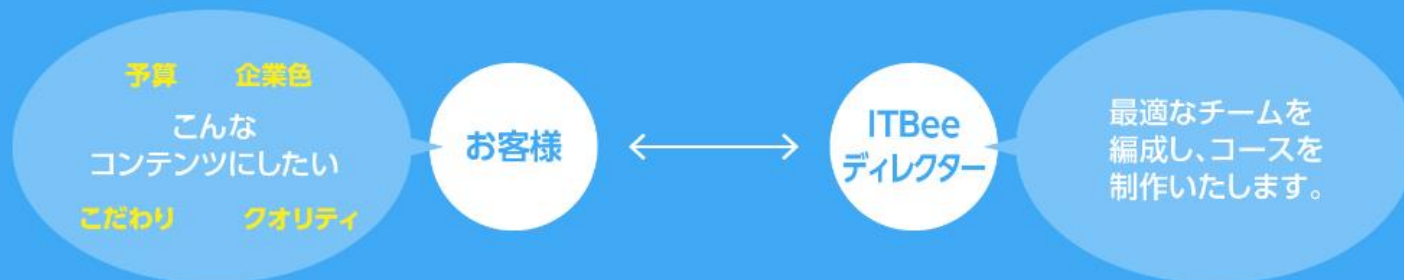
4. おわりに



eラーニング コース制作

研修・セミナー・授業・資料から
eラーニングコースを作成します

企画設計から原稿作成・編集まで、 コース制作のすべてをお任せいただけます



企画・設計

伝えたいコンテンツに応じて、伝わりやすい学びやすい構成を設計・提案いたします。



原稿制作

内容を加味して受講者が理解しやすいワードや言い回しにて原稿を制作します。



デザイン

文字サイズ、フォント、強弱、色、バランス、トーンなどを統一し、魅力あるコースにしていきます。



音声収録

プロのナレーターによるナレーションのアテレコを専用スタジオで行います



撮影

研修の撮影はもちろん、工場の設備やシステム等の操作手順など現場の撮影などにも対応いたします。



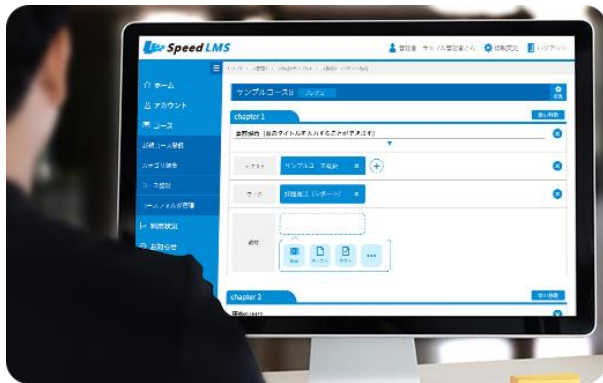
動画編集

チームで行ったクリエイティブを最終的に一つの動画にまとめていきます。

動画配信ツールとして × 情報シェアツールとして × 知識のインプットツールとして

eラーニングシステム 「Speed LMS」製品紹介

eラーニングシステムで働き方の改革を！



「使いやすさ」にこだわったeラーニングシステム！

SpeedLMSは、ITに不慣れな方でもシステム操作で迷わないように、できるだけ簡単に使えるように考え抜かれたシステムです。アイコン操作から、簡単にコースが作れる機能や、動画を配信に最適な形に変換してくれる機能、期限間際の受講者に自動でフォローメールを送信する機能など、できるだけ管理者に負担がかからないように設計されています。Pro版ではさらに、運用上必要な機能の追加、サービスにあったデザインの変更など、カスタマイズを自由自在に行う事が可能です。



セキュリティを重視！開発もデータセンターも日本国内

お客様の大切な個人情報、機密情報をお預かりするために、ITBeeでは様々な取り組みを行っております。情報セキュリティマネジメントシステム（ISO/IEC 27001:2013）（認証登録番号：JP20/080626）を取得。クラウドサービスは、日本国内のIIJ社のGIOを利用。海外に情報が流出しないように配慮しております。プログラムの開発は全て自社内にて行っております。



わかりやすい料金設定。業界最安のプランもあり！

他社様のシステムをご利用のお客様から、基本料金以外に必要なオプションが多すぎて、結局高くてしまうというお声を多数頂いております。SpeedLMSでは、月額のご利用料金の中に動画配信も含めたすべての機能（カスタマイズ機能除く）の費用が含まれます。登録ID数もしくは同時接続数による料金と、Diskの容量による料金のみとなり、動画の配信における「流量課金」はございません。配信時間を気にせずお使いいただくことが可能です。



お問合せはこちら

 03-6276-7142

 info@itbee.co.jp

担当者 : 山中

受付時間 : 10:00~18:00 (土日祝除く)

公式サイト

Web <https://itbee.co.jp>